

砂と暮らし 砂に学ぶ

ITP
だより

④

の農業への再利用について。飲料できるレベルにまで処理した下水を農業に使用することをどう思うか、と聞かれた。

水の少ない地域では、下水も貴重な水資源である。しかし私は「根菜類に使うのは少し抵抗がある」と答えた。と同時に、日本だって昔は野菜を育てる時に肥料として糞尿を当たり前のように使っていたはずなのに、なぜ抵抗感があるのだろうか、とも思った。

過保護とも思える現在の日本の衛生環境が、私の考え方にも影響を与えているのだろうか。自分を取り巻く環境や時代の変化のせいで考え方がこつとも変わるのか、と考えさせられた。

(鳥取大学大学院農学研究科学生・源実恵)
(水曜日に掲載)

チュニジアで授業開始!



サハラ砂漠(チュニジア)でコースワーク受講生と(左端が著者)

昨年11月の1カ月間、乾燥地域研究所で行われた授業に参加した。学生は日本人5人のほかチュニジア人3人と中国人2人の計10人。講師はシリア、ベルギー、カナダな

どで活躍する研究者。国際色豊かだ。砂漠化、ラクタの生態、水資源など乾燥地に関することを幅広く学んだ。

ITP(若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム) 国際的に活躍できる若手研究者を育成することを目指し、日本学術振興会が支援する事業。